

幸せをつかみとる人生

東京信愛教会

1. 人生の目的

人生には目的があります。聖書は、神には計画があり、人を創造されたこと自体目的があることを教えています。神様は、あなたに最高の人生を与えようと願っています。このためにキリストをこの世に遣わされたのです。

それを知るのは、まず神の計画全体を知らなければなりません。それにはまず人間とは何かを学ばなければなりません。

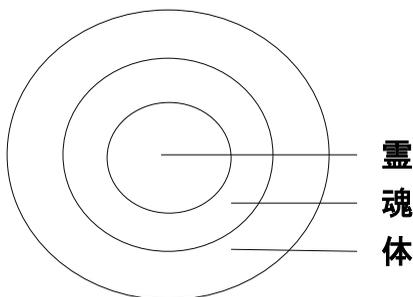
2. 人間とは何か

神は人間を創造されましたが、他のものと異なっています。それは、人をご自身のかたちに似せて造られたことです（創世記 1, 26[1章 26節の略、以下略して表示]）。

手袋は、手のかたちに作られるのは、なぜでしょうか。それは、手を入れるからです。同じように、人間が神に似せて造られたのは、なぜでしょうか。そうです、神を入れるためだったからです。人間は神を入れる目的で造られたのです。

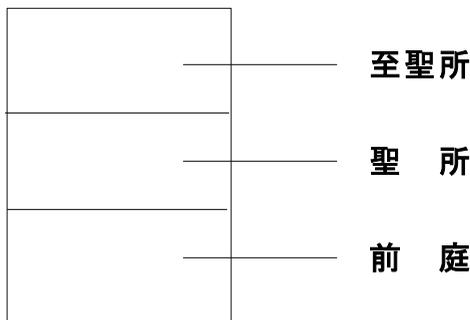
ですからこの目的に沿って、人は神を入れるまで満足しないのです。知識も、富も楽しみも、成功も、それがあなたを満足させることはないでしょう。

3. 人間はどのように成り立っているでしょうか



聖書は人間という器は三つの部分、つまり、「霊・魂・体」で成り立っていると教えています（Iテサニロケ5,23）。

聖書では、天幕や神殿は三つの層から成り立っています。それは、至聖所、聖所、前庭です。



これと同じく人間の最も奥深い至聖所にあたる場所に「**霊**」（ギリシャ語原典で**プニューマ**）の領域があり、神の事柄に触れます。

次に、聖所にあたるところに「魂」（ギリシャ語原典で**プシュケー**）の領域があります。これは心理の領域の器官で、「思い（理性）・感情・意志」の部分と関係します。

最後に、前庭にあたり、様々な人や物事と接触する領域を占めるのが「**体**」（ギリシャ語原典で**ソーマ**）です。

「体」の機能停止は、肉体の病気を生み、最後は死をもたらします。

「魂」の機能停止は、心や精神の病気や、思考の混乱をもたらします。躁うつ病、統合失調症、認知症などをもたらし、思い・感情・意志などに障害をもたらします。

「霊」の機能停止は、この世の様々な諸霊の惑わしを受け、罪と死の法則の中に誘い込まれ、悪霊の誘惑に生かされます。善をなそうとしても、悪の力がまさり、なし得ない自分を自覚するようになります。

体や魂の機能停止は、医師の助けにより治療を受け、健康を回復することができる場合もありますが、霊の機能停止だけは、復活のキリストの命の霊を受ける以外に解決できません。

健康は、霊と魂と体の三拍子が祝福されるところにもたらされます。そして最も大切なのは、霊性（スピリチュアリティ）の機能向上です。

4. 人間に内在する罪と死の原理

人が神に創造されたとき、神の性質を持ち美しい美徳で満たされていました。しかし、罪は人の内に入って来て霊の機能が停止し、霊の死を経験するようになりました。それ以来、人間は魂と体はかろうじて機能は動作していても霊の領域に宿った罪が精神や体全体に行き渡り、罪と死の法則で支配されるようになりました。これを史上初の発見をしたのが使徒パウロでした。彼は新約聖書の主要な書簡を書き記しましたが、「ローマの信徒への手紙」（「ローマ書」と略す）の第7章でその事を書いています。

人は、善を願っても、それを実行できず、かえって悪をなしてしまふ。「わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。わたしは自分が望む善を行わず、望まない悪を行っている・・・それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです」（7, 18-20）と言い、「善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまどっているという法則に気づきます」（21 節）と〈罪と死の法則〉の存在を発見したのでした（8, 1）。これが、人間の姿です。

5. 人の墮落

① 罪は〈人の霊〉を死なせました

そこでパウロは「あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです」(エフェソ 2, 1)

人間には、神の霊とは別に霊があります。

「**人の中には霊があり**、悟りを与えるのは全能者の息吹なのだ」(ヨブ 32, 8) と言います。

「**わたしたちの霊**と一緒にあって証ししてくださいませ」(ローマ 8, 16)

「天を広げ、地の基を置き、**人の霊**をその内に造られる主は言われる」(ゼカリヤ 12, 1)

「あなたたちは、**自分の霊**に気をつけるがよい」(マラキ 2, 15 b 2, 16 b)

このように聖書は人間には〈人の霊〉があることを指摘します。

② 罪は、〈人の思い(魂)〉を神に背かせました

「あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました」(コロサイ 1, 21) と言います。

③ 罪は〈人の体〉に罪を犯させました

「あなたがたの死ぬべき体を罪に支配させて、体の欲望

に従うようなことがあってはなりません」(ローマ 6, 12)

このように罪は、人を墮落させました。ではどのようにしたら罪を犯すことから逃れられるのでしょうか。善の行いも教育も読経も仏像を拝むことも、人を罪から救い出すことはできません。

イエス・キリストだけが救世主なのです。

6. キリストとはどのような方でしょうか？

① 神の具体的表現です。

「キリストの内には、満ちあふれる神性（神の性質・本質の充満 [ギリシャ語原典でプレローマ]）が、余すところなく、見える形をとって宿っています」（コロサイ 2, 9）

② 神が肉体となられたお方です

「言（ことば）は神であった。……そして言は肉体と成って、わたしたちの間に幕屋を張られた（ギリシャ語原典でスケノーの3人称単数の過去形 [エスケノーセン]）」。

キリストは、肉体と成られた神であり、神の幕屋（その発展形態として神殿、教会、神の都）であり、完全な人間です。しかし、罪はありませんでした（ヘブライ 7, 26、II コリント 5, 21）。

このようにキリストは、神にして人であったのです。これは神と人を繋ぎ、罪を贖い、和解をもたらす唯一の「仲

保者」としての特異な存在・救い主でした。

神・人であられたキリストは、十字架に釘づけられ、罪の贖いをなし、死なれました。これにより、人の罪を取り除かれました。

③ キリストは、わたしたちの罪の身代わりとして死なれ

ました

すべての人は一人の人アダムからきたと聖書は言います。したがって、わたしたちはアダムの中におります。第2の人キリストは最初の人アダムが人類全体に及ぼした罪をすべて担い、神からの裁きを受けるために来られました。それは私たちの罪のすべてが赦されるためであったのです。わたしたちに替わって賠償するために来られたのです。その代価こそ十字架での死であったのです。

ですからキリストの中に私たちすべては包含されたのです。

「一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだこととなります」(Ⅱコリント5,14)

「わたしたちが罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」(ローマ5,8)

こうして、キリストは、2つの表徴をもって罪を取り除かれる業(贖罪)を完成されました。

キリストは「世の罪を取り除く神の小羊」として身代わりとして十字架の祭壇に献げられ、罪を贖われました（ヨハネ 1, 29）。

また、モーセが荒野で青銅の蛇を造り旗竿の先に掲げ、蛇にかまれた者がそれを仰ぐと命を回復した（民数記 21, 9）予表を、キリストはご自身に適用され人々の救いのために十字架に上げられました（ヨハネ 3, 14）、その様は、毒はありませんでしたが「罪深い肉と同じような形」（ローマ 8, 3）、すなわち、蛇の形であったことを示されました。かくして、蛇に表徴されるサタンは追放され、人の内側にある罪の性質を根絶なされ、わたしたちはいやされたのです（I ペトロ 2, 24）。

④ キリストはすべてです

キリストは創造主であり（コロサイ 1, 15-19）、全被造物の最初に生まれた方であり、被造物すべてはキリストから出てきて造られました（コロサイ 1, 15）。また死者の中から最初に生まれた方でした（コロサイ 1, 18）。そしてキリストは、教会のかしらであり、教会の体そのものです（I コリント 12, 12）。また、キリストはすべてであり、本体であり、それ以外の被造物はすべてキリストの「影」にすぎないのです（コロサイ 2, 16-17）。食べ物も、飲み物も、祭りも衣服も住居もキリストの影にすぎないのです。太陽も、真の太陽でなく影・予表です。真の太陽は、義の太陽であ

るキリストなのです（マラキ 4, 2）。

7. 神の救いの方法

① 新生

わたしたちの罪がすべてアンインストール（消去）されました。それは古い命を取り除き、新しい命と交換することが神の救いの方法なのです。そこで神の命をインストール（注入）しなければなりません。人に新しき命を得させること、これが「新生」です。この新しい命によって構成されている人を聖書では、「新しい人」と呼んでいます。

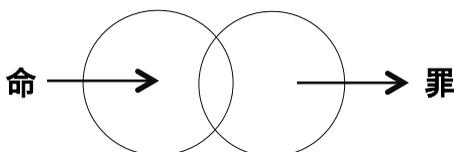
キリストが死によって肉体を脱ぎ去ったのは、もろもろの罪やわたしたちの古き人のためだけではなく、復活の「命を与える霊」（I コリント 15, 45）としてわたしたちの中に新しい命を注入するためであったからです。神の救いの方法は、わたしたちの中に入り込むことです。ですから神の救いの方法は、教えではなく、結合なのです。

②キリストを受け入れること

この聖霊を受けることは、キリストを受けることと同じことなのです。

そしてキリストを受け入れることは、神の子となる資格が与えられ、（ヨハネ 1, 12）、これがキリストを「信じる」ことなのです。

聖書は「キリストに結ばれて歩みなさい」(コロサイ 2, 6)と勧めています。キリストとスクラムを組んで歩くのです。キリストの歩かれる領域、範囲の中で歩くのです。



③ 永遠の命

これまで肉体の中に閉じ込められていたキリストの命は、肉体の死によって聖霊の中へと解放され、多くの命の実を産みだしました。このことをキリストは、「一粒の麦」になぞられました。

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」(ヨハネ 12, 24)。その麦が、地中に落ちて死ぬとき、内側の命が解放されます。そして多くの実が産出されるのです。こうしてキリストの命は、すべての人に無制限に分与されることができるようになったのです。キリストの十字架の死は、単に罪の贖いのためだけでなく、神の命の解放のためであったのです。

聖書は、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ 3, 16)と言います。

神の目的は、罪人に永遠の命を与えることではありません。ここで言う「世」とは、人類一般を指します。この世を愛された神は、わたしたちの罪に対処し、キリストの死によって罪に対する代価を支払い、罪を赦し、神からの命を与えるのです。したがって罪赦された罪人だけが、救われ、キリストと結合して人間の命に付け加えてられた一つの新しい命、神からの命が与えられるのです。これが「永遠の命」です（Iヨハネ5,11-12）。

8. クリスマンとなる意義

クリスマンとは、キリストを受け入れ、キリストと結合し、主の復活の命を与える霊を分与された人を指します。

① 主を受け入れるには、信仰によります

聖書では信仰を定義してこう言います、「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」（ヘブライ11,1）。しかし、「確信」とはどうすべきでしょうか。それは、実体化させることだと告げることができます。信仰とは、霊的な事柄、例えば、処女降誕、罪の赦し、復活、昇天などを実体化する感覚で、五感とは別に付け加えられた感覚です。この感覚によって、願い求める事柄を実体化されるまで祈り求めるのです。そのとき、聖霊が働き、その祈りの対象は実体化され、確信へと導くの

です。

② 神の命が拡大します。

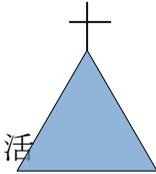
神の命がわたしたちの霊の中に分与されると、それはわたしたちの霊から、魂（思い・感情・意志）の中に広がります。最後に、体にまで浸透し霊・魂・体すべてに神の霊が浸透し、神の命で満ちてきます。これを「聖霊充滿」と呼びます。

キリストは、救い主であり、いやしそのものです。神の霊は浸透して拡大していくと内なる霊も、魂も、体もいやされていきます。霊・魂・体が神の祝福の中に入れられるのです。

③ 教会を造るのです

これは神の計画であり、私たちが神の教会のあかしとなるためです。そのためにはさらに一歩進んで、教会を認識する必要があります。わたしたちは、もはや「古い人」ではなく、「新しい人」です。そして、新しい人の中で生き、新しい人として歩きますが、この「新しい人」とは団体の体、すなわち、教会なのです。

9. 教会の建造は、神の目標



① キリストに結合されて歩む生活

これは、具体的に聖霊に導かれて歩む生

活です。それは信仰によりますが、内側に聖霊を受け入れた人は、「罪と死との法則」から解放されて、「命をもたらす霊の法則」になります（ローマ 8, 2）。そして、肉に従って歩む者は、肉に属することを考え、霊に従って歩む者は、霊に属することを考えるようになります（ローマ 8, 5）。

聖書では、「肉」と言うことは3つの意味があります。

- (1) 人体を構成する肉体（骨・血・筋肉など）を指します。
- (2) 腐敗し、墮落した体を指し、「古き人」を言い、「罪と死の法則」の支配を受けています。
- (3) 霊・魂・体を含めて全体が「完全に墮落した人」を指します。

肉を離れ、霊に生きる人は、おのずから「霊と命の法則」によって神の教会を造るために向かいます。

② 教会と神の国の建造

そのためには肉に打ち勝ち勝利しなければなりません。徹底的に肉の働きをそぎ落とし、根絶しなければ教会や神

の国を建造することはできません。またサタンは教会が燃え上がるとき、肉を通して妨害してきます。したがってこの肉の働きに敏感になり、惑わされないように注意しなければなりません。

③ 教会は、神の住まいです

それは、キリストを内容とし、キリストを表現するキリストの体です。ですからそれは父と子と聖霊なる三一の神の住まいであります。

また教会は、神の神殿です。神はその神殿の奥の部屋である「至聖所」におられます。至聖所は、わたしたち、人の霊の予表です。今やわたしたちは「新しい人」を着て、教会となって生きるのです。

④ 教会は、神の外観を持っていなければなりません

それはヨハネ黙示録 21, 11 に見られる神の都・新しいエルサレムの姿です。「都は神の栄光に輝いていた。その輝きは、最高の宝石のようであり、透き通った碧玉のようであった」。

都全体は、神の表現、神の外観を持っており、その表現された神は、碧玉のようであったのです。

教会も神の表現で満ちていなければならないのです。そしてバベルの、町のようにレンガでなく、宝石で造られるのです。神から示された幕屋は、金で満ち、大祭司の胸当

てと肩当てには、宝石で満ちていました。これが幕屋の光景で、神の教会のあるべき姿です。そしてわたしたちがその神の都、教会の構成要素となるのです。この神の都を目標にして教会の建造にあたるのがクリスチャンライフなのです。聖別の城壁を構築し、神のあかしの中心として教会を建造していくのです。

教会はわたしたちの生活そのものです。教会はわたしたちの保護です。教会は一つの神の都・新しいエルサレムの投影です。常に、神の都のビジョンを持ちながら教会形成にあたりましょう。そのときわたしたちは、神の国の民となるのです。

10. 救われ、いやされるために何をすべきでしょうか

あなたも今、キリストを受け入れ、神の国の民となり、力強い働きといやしの生活が与えられます。そのためには次の6つの事を行うことです。

① 神の必然を認識する

キリストを三一の神と認め、神の必然に従って生きることです。この世の事柄はすべて神の許可の下に起っています。すべてを神のご支配の下で必然的に起っていることと信じ、神の栄光を崇める感謝の生活をするということです。これが悔い改めです（マタイ 4, 17）。

② 信じ、告白する

キリストを救い主、いやし主として受け入れ、口で神に従う生活をするを告白することです。そうすれば、救われます（ヨハネ 1, 12 ローマ 10, 9）

③ 洗礼を受ける

これは神を受け入れたことを認め、古い概念、古い考え、有毒な伝統・習慣・趣向に支配された「古い人」を葬り、神のみことばに立つ「新しい人」を生きることを意味します。またそれは、罪の贖いを感謝する教会生活をし、感謝しつつ、神の驚くべき不思議な御業のあかし人として生きることを意味します。「古き人」を脱ぎ捨て、「新しい人」を着て教会生活をすれば、救われます。それには洗礼を受けることです（マルコ 16, 16）。

④ 什一献金を徹底すること

神の神殿を再建するために、十分の一の献げ物をもって神の家を満たすように言われています。与えられた恵みの十分の一は神にお返しするように命じられています。これを実践すれば神は祝福してください。「これによって試してみよと万軍の主は言われる。必ず、わたしはあなたたちのために天の窓を開き、祝福を限りなく注ぐであろう」

(マラキ 3, 10)。このことは、キリストも守りなさいと教えています (マタイ 23. 23)。

⑤ 祈り、聖書を読み、教会を愛すること

祈りは、神に触れ、神を呼吸し、神を得る方法です。祈りは、思い・感情・意志の中であるよりも霊の中においてあるべきです。霊の中で祈ることを学ぶ必要があります。まごごろを込めて祈り、みことばを取って祈り読みすると神の御旨を自ずと把握することができます。からみつく思いから解放されて祈りとみことばに専念し、祈りの仲間を持つことです。主の名を呼び求めるなら、主は必ず祈りに応えてくださいます (ヨハネ 14, 14)。そして神の啓示を受けることです。

最後に、教会生活を中断しないこと (ヘブライ 10, 25) です。個人では打ち勝つことのできない困難や弱さも、教会にて祈るならば、往々にして取り去られてしまいます。初代教会の主の兄弟たちはいつも集まって祈っていました。そのときキリストは同伴し、共にいてくださったのです。個人の祈りで解決できなかったことも団体の祈りの中で対応しやすくなります。そして福音を語り伝え、分かち合うことです。あきらめないで祈り続けましょう。

⑥ キリストを経験する

復活の主の命を与える霊は、キリストを受け入れた人の霊の中に既に注がれており、神のご臨在がなされております。

す。このキリストの霊（聖霊）に向って語りかけ、相談し、助けを求めてください。聖霊は、わたしたちに偶然と思われるような事柄に出会わせてくださいます。それは偶然ではなく、神の必然であり、シンクロニシティ（意味のある一致が偶然によって気づかされる現象で共時性と呼ぶ）です。キリストとの出会いは、聖霊を介在してなされますが、キリストはわたしたちにたえず不思議な御業を通して導かれます。このキリストを経験しなければ信仰のダイナミズムが理解できません。今どうか祈ってみてください。

「主イエス様！ わたしはあなたを必要としています。わたしの霊の中に入って来て、すべての罪を取り除いてください。わたしの罪のために十字架で死んでくださったことを感謝します。今、あなたを救い主、いやし主としてお迎えします。すべての罪を赦し、永遠の命を与え、聖霊で満たしてください。今、わたしは自分をあなたに献げます。どうか造り変えてください。主の御名によって求め、お祈りします。アーメン」。

今あなたは人生の謎がわかったと存じます。どうかキリストがあなたを祝福し、経済的、肉体的、精神的問題をいやし、神のご計画の中に生きさせてくださいますように！ 神の恵みと真理がいつまでもありますように。

思い煩い悩んでいる人のために

「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」(I コリント10, 13b)

「御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。」

(I ヨハネ1, 7 1, 9)

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(I テサロニケ5, 16)

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」(ローマ8, 28)

「どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエスキリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。」(I テサロニケ5, 23)

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうす

れば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」

(マタイ7,7)

著者 鈴木武仁 (すずき・たけひと)
東京信愛教会主管牧師 M.Div. D.Min.
イエスの友会会長、日本福音学校理事長
(新宿校・千葉校・大阪校・日本クリスチ
ャン音楽大学)

東京信愛教会
創立 80 周年記念出版

幸せをつかみとる人生

2014 年 6 月 16 日発行

著 者 鈴木武仁

発行所 日本基督教団東京信愛教会

TEL 03-3359-9539 FAX 03-3359-5791